



高橋 勝男 議員

子ども平和大使 広島に派遣を

議員 栗原市は、今年の6月に「日本非核宣言自治体協議会」に加盟しているが、核兵器廃絶、恒久平和実現に向けた今後の取組みは。
市長 今年の8月に市役所ロビーで「原爆展」を開催、今後でもできることから行動していきたい。

議員 8月6日の「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に、子どもたちを平和大使として代表派遣を行い、戦争と原爆の悲惨さ、平和の尊さを学ぶ機会を作るべきと思うが。

市長 戦争や原爆の悲惨さ、平和の尊さを次世代に語り継ぐことは、私たち世代の責務であり、指摘のあったことを含め検討していく。

議員 放射性物質検査で、再除染の対象は13件となっているが、その面積はいくらか。また、2番草の検査が必要な件数は。
市長 8月31日現在で、再除染が必要となった面積は約21畝、2番草以降も検査



核兵器廃絶と平和を求めて（国道4号・築館地区）

が必要な牧草は肉用牛で37件、乳用牛で193件である。

議員 検査結果によると、1番草より2番草の方が高いと聞かすが、実態は。
市長 県がこれまで検査した2番草は82検体と少なく、現在も調査中であり現時点では判断できない。

議員 市が事業主体の牧草地放射能除染委託事業の中で、再除染はできないのか。
市長 草地の再除染については、現在、事業の対象となるよう県と調整している。



沼倉 猛 議員

市民の生活実態を どう認識しているか

議員 栗原で少子高齢化が進行し、過疎化が顕著になっている理由は、国策で市の基幹産業である農業、商業、林業などが長期間に渡り不振に陥らされ、地域経済が疲弊していることにある。市民が安心して暮らせる第一の条件は、生活が成り立つ収入が必要であるが、その生活実態をどう認識しているか。

市長 過疎化の原因は、出生者が死亡者を下回る人口減少や地域経済の状況も影響していると考えている。

市民所得は、平成21年までは減少してきたが、平成22年から24年までは増加に転じている。

介護用品支給事業の 非課税要件の撤廃を

議員 在宅介護を行っている理由として、入待ちは行政の責任であるし、住み慣れた自宅で介護されたい、してあげたいという意向は

崇高なものである。にもかかわらず、課税世帯であるという理由で介護用品が支給されないというのは、理

にあわないのでは。
市長 課税世帯には負担能力に応じて負担していただいている。これまでどおり非課税世帯のみとする。

学校再編問題では 丁寧な説明を行うべき

議員 高清水地区市政懇談

会で学校再編に関し通学支援について質問があったが、教育長は支援を行うというだけの答弁で誤解を招く、正確な答弁をすべきでは。
教育長 通学支援は当然の間行が、編重緩和を図つ



シャッターの目立つ商店街

て見直しを行う。

市の行事日程は適切か



瀬戸健治郎 議員

議員 昨年の産業祭りは、若柳ドリームパルで6800人の来場、今年は8月31日に志波姫イオンを会場に、栗原市民まつりとして開催され、昨年の4倍の方が来場し、評価をするものである。一方、基幹産業である農産物の品評会や研究成果の発表、販売が少ないなどの課題も見えた。また、この時期は各地区の運動会などもあり、市の行事の持ち方はどう調整しているのか。

市長 市民まつりには2万8000人が来場し、アンケートをいただいた9割を越える方々から「夏場の開催がよい」と回答があった。行事の持ち方は、庁議や部長・総合支所長等会議で情報を共有し、極力日程が重ならないようにしている。農林産物品評会は同時開催が望ましいが、栗つこ農業協同組合と十分協議を行い、開催時期、方法など、改めて協議を行う。

議員 7月から9月の、一番プールを使う時期に、若柳中学校のプールを解体するのは理解できないが。

市長 放射能検査を継続し、安全安心を第一に適正な管理を行い、牧野として利用していく。



多くの人出でにぎわった市民まつり

戦略はどうする
観光客
200万人



みつづか 三塚 議員

議員 大型観光企画「仙台・宮城ステイネーションキャンペーン」(以下、キャンペーン)が終了した。市の成果をどのように検証し、観光客200万人を達成しようとしているのか。

市長 キャンペーン期間中、市内で開催されたイベントへの参加者数は、前年度を3万2000人上回る13万4000人となった。観光客200万人の誘客に向けて、一般社団法人「栗原市観光物産協会」と連携し、キャンペーンで好評を得た市内の観光スポットを周遊する着地型の旅行商品を充実させるとともに、湯沢市、一関市、東成瀬村や世界文化遺産の平泉など広域観光ルートの開発。さらに、栗駒山麓をジオパークと位置付け、震災で生じた栗駒山麓の崩落地などのビューポイントを設置し、貴重な自然もジオサイトとして、学術研究や防災教育などを幅広く活用し、市独自のジオツーリズムにより国内外からの誘客を図っていききたい。



住民も期待する旧耕英分校の活用

議員 栗原の観光は、栗駒山麓の充実にあると思う。特に耕英地区の「栗駒深層水」の公設民営化や旧耕英分校の活用による産業再生が必要と思うが、どうか。

市長 「栗駒深層水」は、所有する企業に跡地利用を積極的に働きかけていきたい。また、旧耕英分校は栗駒山麓全体の資源として、総合的に検討していきたい。

その他の質問
○公民館などの使用料ののうちよ銀行での支払い

公共施設の照明 LED化を



佐々木 幸一 議員

議員 若柳総合体育館の1000個の水銀灯をLED灯にすると、2000個で明るさが確保でき、寿命は水銀灯の3倍以上で、CO2排出量が減り環境に優しいことから、公共施設への導入を計画的に進める考えは。

教育長 LEDの耐用年数と電気料金の差額は同じくらいとなる。環境配慮からLED化の計画を考えていきたい。

議員 電気料金の値上げに伴う、市の支払総額は12・3%の値上げに

より、支払総額は年額約5億6829万円で、約6200万円増える。

議員 若柳総合体育館をはじめ公共施設のLED化を計画を立て進めるべきでは。

市長 公共施設の新築や修繕に合わせ、本庁舎や総合支所などでLEDを導入してきた。今後も国の省エネルギー政策を注視し、LED化を計画的に進めたい。

議員 公共施設のユニバーサルデザインの推進を

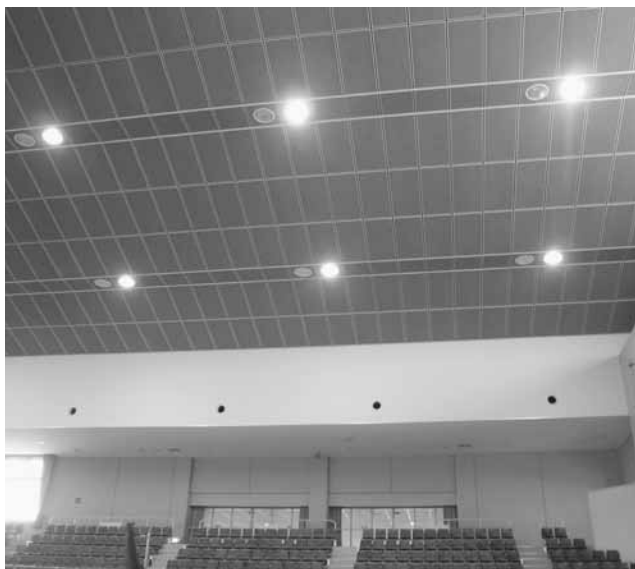
議員 高齢化が進み、高齢

者から膝や腰の痛みから、公共施設のトイレの洋式化の要望が多いが、考えは。

市長 現在、公共施設で和式トイレは約800カ所ある。洋式化するには約5億円かかるが、高齢化が進むので年次計画を立てながら進めていく。

議員 高齢者などから栗原文化会館にエレベーター設置の要望が多いが、考えは。

教育長 築館町時代に検討した経緯があった。今後、高齢者や障害者への配慮から検討したい。



LED化で経費の節減を

スクールのバス利用の制限をなくせ



小野 久一 議員

議員 現在のスクールバスの運行は、再編された小中学校においてはすべての児童生徒の利用が自由であるが、以前からの学校は小学生4名、中学生6名以上という規制がある。遠くの停留所まで行き、乗っている生徒がいる。制限をなくし優しい行政、スクールバスの運行をすべきでないか。

教育長 地域の実情に応じて柔軟に対応している。今後、学校再編に一定のめどがついた時には、すべての通学支援を見直していく。

議員 道路両側の草、雑木などの刈り払いは年に何回いつの時期に実施しているか。また、道路側溝の管理の徹底をすべきである。

市長 例年1回または雑草の繁茂状況に応じて2回、6月から11月にかけて実施している。指名競争入札や随意契約により地元業者へ発注している。

側溝の破損は常時または、緊急時のパトロールを行い、維持管理に取り組む。



6名未満でも乗せてほしいな

議員 国保資産割をできる限り少なくし、税負担の軽減に努めるのが市のとるべき姿勢でないか。平成24年度末の財調残高と資産割総額は、資産割をなくし、税額を引き下げるべきである。

市長 財調残高は7億7000万円、資産割総額は2億5000万円である。資産の所有は税負担能力があるということ、税の一部として算定していく。

議員 国保資産割なくし引き下げを

放課後
児童クラブの
取り組み状況は



菅原 勇喜 議員

議員 ①国の「放課後子どもプラン」では、すべての小学区での実施を目指すとしているが、栗原市の取り組みはどうか。また、待機児童は発生しているか。
②厚労省からガイドラインが示されているが、どのように具体化されているのか。
③社会福祉協議会に業務委託しているが、人件費は臨時職員45人分が計上されているだけである。担当者の人件費も委託料の中から負担すると明示されているが、これで運営できるのか。

教育長 ①平成24年度は16カ所で開催。最大月で541人の利用があった。待機児童は栗駒地区3人である。小学区ごとの設置については、今後の学校再編を見据え取組んでいく。
②市の放課後児童クラブの「ガイドライン」ならびに「業務マニュアル」を策定し、具体的に対応している。要望、苦情については、利用者、指導員、市が連携して対応している。社会福祉協議会でも独自に事故対応などのマニュアルを作成し、

講習会や研修会を行い、指導員の資質の向上を図っている。
③十分やれるものと認識している。賃金の支払いについては支払われていると認識している。
その他の質問
○市長の政治姿勢について（消費税増税中止、TTP交渉撤退、憲法改定反対、原発再稼働反対の意思表示を求めた。）
○市職員などの旅費について（宿泊費の実費支給を求めた。）



若柳の放課後児童クラブ

学校跡地の
管理は適正か



佐藤 文男 議員

議員 平成24年度末に閉校した10校の跡地は、3年間は市で管理している。その間に地域で意見を集約し、利活用の方向性を決めることになっているが、学校の歴史と共に歩んできた校庭内の植木、遊具の管理はどうなっているか。また、雨漏りしている旧校舎もあると聞くが、管理はどのようになっているか。
教育長 校庭内の除草や植木の剪定、遊具の管理などを引き続き市で行う。遊具

の保守点検は既に実施している。また、複数の施設で雨漏りが確認されている。応急的な修繕で対応しているが、特定が困難な箇所は調査中で、わかりたい速やかに修繕工事を実施する。
適正な有害鳥獣対策を
議員 人里でもクマ出没のニュースが連日報じられている。人身被害も心配される一方、農林作物の被害も深刻だ。鳥獣保護や生態系の保護など多方面からの対



閉校になった旧金田小学校

策も必要だ。被害の推移と捕獲状況、また、捕獲者の状況と担い手確保の対策、被害防止の支援策はどうか。
市長 農作物の被害は、24年度で89万円と、増加の傾向にある。捕獲状況は獣類で、24年度まで3年間で20頭捕獲している。有害駆除隊員は減少し90人となっており、隊員確保が厳しい。支援策としては、電気柵の購入経費の2分の1を補助し、さらに電気柵を随時貸し出しできるようにしている。

私もひとこと

伝統文化・芸能の継承を

栗駒中学校との統合前、鶯沢中学校には「うぐひす活動」という時間がありました。昭和60年から続いたこの活動は、工芸や手芸のほか、白鷺太鼓や御神楽、八ッ鹿踊りなど、旧鶯沢町の伝統文化・芸能を「授業」という形で地域の方々から学ぶ時間です。長い間、地域の文化を守る後継者の育成の一端を担っていました。私自身、この活動を経て、八ッ鹿踊り保存会の会員となりました。また、現在の会員の約半数が中学校からの経験者となっています。

さて、この活動は、中学校の閉校とともに一時なくなつたものの、旧鶯沢中学校出身の学生自身の声で「ふるさと学習」として復活しました。誇らしい反面、いつまで続くのかという不安もあります。保存会だけでなく、学校ひいては市が連携し、「ふるさと」に関心を持てる時間・環境を守っていただきたいと思います。



か の ち え み
狩野智栄美さん
(鶯 沢)



に かい どうしゅういち
二階堂修一さん
(金 成)

誰もが イキイキ働ける栗原に

私は、市内で障がい者の方々への就労支援を主に行っているNPO法人に勤務しています。事業開始から5年が経過し、栗原でも障がいのある方の社会参加が進み、地域や企業など様々な場所で活躍する方も増え、同時に「働きたい」と希望する方も多くなってきています。

地域での支援ネットワークの拡充、企業での一般就労を支援する仕組みの普及、様々な福祉事業所での就労を支援する取組みなどから、障がいのある方の働く場も拡充してきています。しかし、一人でも多くの障がいのある方が働き、より良い生活を実現していくためには、地域や事業主の皆さん、そこで働く方々の一層のご理解とご支援が必要となります。障がいの有無にかかわらず、「誰もがイキイキと働ける栗原」になれるような地域づくりを、これからも願っています。

あじがき

山頂から始まった栗駒山の紅葉も、大分麓のほうまで降りてきた。豊穡の季節を迎え、新米の香り、食感を楽しむことができ、至福の時を過ごすことができるのも、この地に生きる者の特権である。

過日、市内幼稚園の運動会を参観したが、幼子たちが懸命にかけっこ・プログラムに興じている姿には、毎度のことながら感動を覚える。未来に生きるこの幼子たちに平和なまほろばの地「栗原」を引き継いでいくことが、今を生きる私たちの使命と改めて感じた次第である。

広報編集調査特別委員会

- | | |
|------|---------|
| 委員長 | 佐々木 脩 |
| 副委員長 | 佐藤 範 男 |
| 委員 | 菅原 勇 喜 |
| 委員 | 高橋 渉 |
| 委員 | 菅原 久 男 |
| 委員 | 藤 千 昭 |
| 委員 | 佐藤 悟 |
| 委員 | 高橋 勝 男 |
| 委員 | 高橋 久 男 |
| 委員 | 小野 久 一 |
| 議長 | 長石川 正 運 |